

腰椎椎間板ヘルニアに対する

経皮的内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術 (PELD/PED)

についてのご案内

当院では腰椎椎間板ヘルニアの治療方法として、経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術 (PELD/PED: Percutaneous Endoscopic Discectomy) を導入しています。

PED は外径 6-7mm の内視鏡をヘルニアの部位に入れて、生理食塩水で灌流しながら、細い鉗子やラジオ波バイポーラなどの器具を用いてヘルニアを取り除く方法で、椎間板ヘルニア手術の中では、現時点における最少侵襲の手術法と言えます。傷の大きさは8mm程度で、ヘルニアの出ている場所、大きさなどから、内視鏡を入れる位置を決めます。



経椎間孔アプローチ：TF法 (transforaminal法) は、局所麻酔で患者さんと会話をしながら行うやり方で、腰の横の方から痛みが出ない位置に内視鏡を入れ、ヘルニアを摘出します。



椎弓間アプローチ：IL法 (interlaminar法) は、従来の顕微鏡や内視鏡 (MED法) に近いアプローチで、腰の後方から、骨と骨の間の黄色靭帯という靭帯に孔を開けて (必要に応じ一部骨を削り)、そこに内視鏡を入れヘルニアを摘出する方法です。麻酔は全身麻酔で行います。



腰椎椎間板ヘルニアは、自然治癒が期待できる場合も多く、当院でもブロック治療など保存療法を基本としておりますが、なかなか痛みが取れず、お困りの方は[整形外科外来](#)にてご相談ください。

千葉メディカルセンター 整形外科・脊椎外科 部長 平山次郎
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医
日整会脊椎内視鏡下手術・技術認定医 (3種・経皮的内視鏡下脊椎手技)